

北見まちづくりアンケートへの北見市議会議員選挙 立候補者からのご回答

質問1 今後も北見に住み続けるために必要だと思うことに関して

項目1 「商業施設に関して」への回答(1)

パラポに限らず、パラポを含めた北見市内の商店街を充実した店舗にし、若者であふれる名所にしたいです。

項目1 「商業施設に関して」への回答(2)

若い人のご要望の高さに驚きました。どうしても北見のような消費者が少ない地域には、大型の店舗の出店は限られていると思います。

項目1 「郊外に商業施設を増やすことはできますか」への回答

現在、道内のどの地域に行っても同じ営業所(自動車、スーパー、生活建材等)が建ち並び、そのまちの個性がほとんど感じられません。郊外に商業施設が増えることは、既存の商業地域への影響が大きく得策ではないと思います。

項目2 「娯楽施設に関して」への回答(1)

テーマパークがあると若者に限らず、老若男女で溢れた場所を提供できると考えています。まずは、空いている空間を無料で提供し、季節ごとに特化したイベントを開催したいです。

項目2 「娯楽施設に関して」への回答(2)

若い人が気軽にレジャー、スポーツ、文化交流できる施設は少ないと感じています。

項目2 「娯楽施設に関して」への回答(3)

自分自身では、生活するには、大体のものは揃うし、環境も悪くない。自然にも恵まれており、とても良い街であると感じていますが、若者からすると、娯楽施設が少ない、職場に限られる、商業施設も選択肢が少ないなどの考えもよくわかるし、刺激が少ないのかと感じます。高齢者からすると、病院等の医療施設、介護施設の充実を望むのもわかります。

民間での事業になることが多いので、市議会議員の立場からはできることが限られるが、誘致などに関しては、今後とも積極的にしっかりと取り組んでいきたいと考えます。

項目2 「レジャーができる施設を増やす必要性は感じられますか」への回答

基本的にどのようなテーマパークを想定しているのでしょうか。今ある、若松地区のフラワーパラダイスやファミリーランドは、地方都市のレジャーランドとしてはよく頑張っていると思います。実際に道東の近隣市町村からの来訪者も多いと聞いています。

新しいものを創るためにはどのくらいの資本投入が必要か「北見らしさ」を演出しながらどのような「遊び場」があったらいいのか。しっかり研究する必要があると思います。

項目3「環境整備に関して」への回答(1)

街灯が少ないことは、防犯上も問題が多いと思っています。更に思うのは路側帯が消えている、もしくはない、など夜間運転していると「危険」を感じます。議会質問でも取り上げました。また、体が不自由な人のバリアフリー対策は、歩道の点字ブロックが破損していたり、新庁舎内に点字ブロックの設置が少ないこと等は、市の姿勢が弱者に目を向けていないと残念な実態があります。諦めずに議会質問に生かします。除雪に関しての苦情は毎年多く、冬の北見にとって一番頭の痛い課題であると思います。各家の間口除雪を行うことの要望は強く、道路の排雪の問題、そして玄関前にわざわざ置き雪をされたなどの苦情は解決していく方向で取り組んでいきます。

項目3「環境整備に関して」への回答(2)

『綺麗な町を』合言葉に市民活動を行いたいです。イベントとリンクしたような環境整備活動を行いたいと考えています。

項目3「街をきれいに保つ取り組みが必要ではないか」への回答

北見には伝統的な冬あか一掃運動もあり、地域の美化について市民の意識は高いと思います。さらに、町内会単位で月1～2回定期的なクリーンアップ作戦なども活動につながると思います。

項目4「交通機関に関して」への回答(1)

バスは、都市部の主要路線だけを重視して、地方路線は少しずつ縮小しています。北見自治区以外の方は不自由な生活をしています。もう少し、地方路線に目を付ける必要があります。

項目4「交通機関に関して」への回答(2)

郊外に関しては、可能な限り自宅近くでの乗り降りができるようにしたいです。また、学生向けにバス料金補助が出来るよう、市政に掛け合います。

バスの待ち時間や運行状況に関しては、バス停にテロップが出るようなデジタル掲示板の設置を求めます。

項目4「JR 石北本線を存続させていく取り組みはございませんか」への回答(1)

学校遠足、修学旅行にJR利用を呼び掛ける(相手方のあることではあるが、特急への乗車、修学旅行用臨時列車の運行を要請する等)

また、貨物輸送の拡大として

- 取り扱い貨物(特に着荷)を増加させ、本数を増やす
- 遠軽駅の荷扱いの運動を起こす
- タンク車の輸送を復活させる
- 札幌、函館、苫小牧駅発の貨物輸送が増加できるよう企業に鉄道利用の運動を作る
- 根室本線の富良野・新得間の廃止を撤回させ、滝川、旭川、遠軽、北見、網走、釧路、帯広、新得間の環状路の保持と貨物列車の運行要請が考えられます。

項目4「JR 石北本線を存続させていく取り組みはございませんか」への回答(2)

現在も北見市を中心とするオホーツク圏活性化期成会などが協力して、石北本線の利活用を進めています。沿線自治体や石北沿線ふるさとネットワーク、MOTレール倶楽部、北見工業大学鉄道研究会などが網走—旭川間で特産品の車内販売を実施しています。利用者の評価も高く、リピーターも増えています。コロナまん延防止で休業を余儀なくされていますが、石北本線の利用促進と新しくオリジナル豊富な特産品が紹介できる機会なので、さらなる販路拡大に取り組んでいます。

項目4 「バスの待ち時間や運行状況などの情報をバス停で確認できることはできないでしょうか」への回答(1)

バス停にいわゆる「バスロケーションシステム」というものを設置できないかということかと想像します。それには莫大な費用がかかり現状では難しい状況です。

ただ、北見工大が開発に携わったスマートフォンでの「バスロケーションシステム」は一部市内路線で運用されています。今後対象路線が拡大していく可能性があります。若者の方の多くはスマートフォンをお持ちで対応できるでしょうが、高齢者の方々など対応機器を持たない方もいるので、全世代には難しい課題です。ぜひ、スマートフォンなどでシステムを活用してみてください。

項目4 「バスの待ち時間や運行状況などの情報をバス停で確認できることはできないでしょうか」への回答(2)

バスの待ち時間については、バス停に運行時間を表示する、スマホにバスの位置が送られるなど、全国では様々な試行がされており、それらを検証しながら取り入れて行くようバス会社に働きかけて参ります。

項目4 「イオンの入口にバス停を作れないでしょうか」への回答

将来的にまったく無理とまでは言いきれないと考えています。「イオンの入口」とは標高が低い最も広い駐車場にある玄関から、バスに乗れないのかという問いかと思えます。

バスが入りこむ通路の確保、自家用車進入との安全性、イオン側とバス会社の考え方、それによるダイヤ(時刻表)の変更による影響、バス路線は勝手に決められないので認可が下りること。こういった条件が解決すれば実現不可能とまでは考えていません。しかし課題は多いです。

今の夕陽ヶ丘通り沿いのバス停では、実際店舗内の買い物をする場所まではそれなりの距離がありますよね。イオン店舗内にモニター型のバスロケーションシステムをする必要すら感じています。

項目5 「進学、就職に関して」への回答(1)

進学で市内を離れた子供達が喜んで、帰省出来る環境を作る事が必要と考えます。

項目5 「進学、就職に関して」への回答(2)

総合大学の設置を求めますが、いまは北見を支えてくれている大学のサポートが必要だと考えます。北見の大学へ進学した地方の学生が、地元へUターン就職せず、北見で就職してもらえるような就職先の充実も図りたいです。そのためには、学費の負担ができるような策、学生寮の受け入れ対応など、地域の皆さんと相談・協力しながら進めていきます。

項目5 「良い労働環境の普及が必要かと思いますがお考えはございますか」への回答

「安定的な雇用、地域医療」
能力や適性に合った職業が一定数あり、安定した収入が得られることが必要であり家庭医から高度医療まで、市民の健康を維持するため、医療体制の維持充実が必要であると考えます。

項目5 「若者の流出を防ぐには高校生までに北見の魅力を実感してもらうことが必要と感ずますがいかがでしょうか。」への回答

農業体験や雇用保険法の職業訓練給付金の対象項目を高校生にも適用できるような支援を考えます。

項目5 「市内で就職したら返済不要の学費補助(4年勤務で免除など)の仕組みはできないでしょうか」への回答

導入の必要性を理解します。パワハラ等で途中退職の場合は事業主負担を設けるなどが考えられます。

項目6 「市の活性化に関して」への回答(1)

今もなお多くの市民の皆様方が新型コロナウイルスの影響を受けており、特に飲食店の活性化を促進していきたい。アフターコロナ、ウィズコロナとしてすごす事の出来る新しい形を模索していくと共に市外からの人の流れを作る事が必要と考えます。

項目6 「市の活性化に関して」への回答(2)

町の活性化は各所や施設を作るよりも現存する施設を循環出来るバス路線等が必要です。市内に宿泊する方々を通過型の泊りではなく滞在型の宿泊が出来る様に各所を回れる必要があると思います。

項目6 「市の活性化に関して」への回答(3)

端野町の姉妹都市である丸森町との連携経験を活かして、各地方のイベントに参加し特産物を売り込み、北見市に訪れやすい情報発信をしたいと考えています。また、北見市内の商店街を充実させ老若男女問わず人で溢れる名所にしたいです。

項目7 「公共施設に関して」への回答(1)

テーマがとても難しいですが、「北見に住み続けるために必要」と考えるのであれば、公共施設の充実化になるのではないのでしょうか。

児童や学生が成長していくために必要な教育環境、子育て世代が期待する、子供の社会教育を実践できるものや、家族団らんできるようなゆとりの環境 身体が不自由になる世代の高齢者は、バリアフリーなどの社会生活に不便を感じさせない環境、それぞれの世代は立場も違うし、求めているものも違うと思う。

「北見に住み続けるために必要」なのは各世代の要求を満たしてあげることになるので、利益を追求するような施設よりも、誰でも自由に活用できる公共施設を充実化することが、この街を好きになり住み続けるきっかけに繋がるのではないのでしょうか 『大好きな わが街！ 北見市』と、北見市民が口にするようなまちづくりが必要です。

項目7 「公共施設に関して」への回答(2)

バスケット、サッカー、フットサル、デニスなど種目ごとに特化したスポーツ施設の充実を図りたいです。

項目7 「市営住宅アパートを増やすことはできますでしょうか」への回答

市営アパートを増やす事よりも、現在有る市営のアパートの空部屋を埋める必要が有ります。

項目7 「公共施設 に関して」「項目12進学、就職に関して」への回答

北見の人口減を食い止めるには、社会減である人口流出を食い止めることが先決。そのためには、若者が北見で進学し、そのまま就職で残るシステムが重要。

研究学園都市という構想は、これからも諦めず続けなければならない。このため、新たな大学を誘致することが求められる。立命館アジア太平洋大学(別府市)の例や、東京農業大学生物産業学部(網走市)の例がある。必ずしも実現不可能ということはない。これまで、市として誘致の積極的な動きを行ってこなかったことが問題。北海学園大学跡地には、一部は老朽化しているが、運動施設や国際会議場など、ある程度の施設が揃っており、新たに建てるよりは有効に大学として活用できる。同志社大学もその候補の一つと考えられる。北見キャンパスができ、若者が賑わう活気ある街並みを想像するとワクワクする。このために、私も積極的に関わりたい。

項目8 「学業支援の充実」「市民のニーズにこたえるための取り組み」「夜間対応病院を増やす取り組み」への回答

教育費がかかる年齢まで費用の援助が必要と考えています。

学生に限らず市民の皆様の意見を聞ける場所を提供するため、フリーに記入できる専用ホームページの立ち上げを要望します。

夜間救急病院の受け入れに関する改善点は早急に対応する必要があります。

項目8 「高校生の医療費負担補助を設けていただくことはできないでしょうか」への回答

私は「こども医療費助成」とよばせていただきますが、義務教育までは少なくとも医療費負担のない北見市をつくろうと呼び掛けて活動していますが、現在は小学6年生まで完全無料ではありませんが、市から助成される状況です。子どもは年齢が上がるほど病気になる割合(罹患率)が低くなりますから、市町村によってはすでに高校生まで無料の市町村もあります。北見市では、入院、通院で実地年齢が違いますが、子どもの数が減少していることもあり、対象を中学生から高校生まで拡大しても、金額的な自治体の負担は、年齢が低い層と比較すると増額分は小さいと考えます。無理な意見ではありませんので市民の1人、又は多くの意見として、市や議会に要望していくことが良いと考えます。

項目8 「寒暖差が大きくても暮らしやすいまちづくりへの取り組みはありますか」への回答

冬季の安全対策の充実に加え、余裕があれば一般家庭に再生可能エネルギー設備の導入を推進し資金補助を考えます。

項目8 「子育てしやすい環境への取り組みはありますか」への回答

千葉県流山市、埼玉県鳩山町などの先進自治体を参考にすることができます。

項目8 「医療の充実に関してお考えはございますか」への回答

入院施設の拡充、地域包括ケアシステムの拡充と実績調査が必要だと考えます。

項目9 「地域交流に関して」への回答

北見市の友好、姉妹都市を通じて子供たち、若い世代に向けた交流活動を行います。

項目10 「人口増加に関して」への回答

大学などの充実を図れば、人口が増えると思っております。

項目10 「物価を引き下げる施策はありませんか」への回答

物価引き下げの兆候は考えられず、物価上昇に対しての生活資金支援、又は廃棄予定食料品の無償又は定額での供給、地元産出品の市場に出せない物の情報提供等、行政としてできることの実施が考えられます。

項目11 「経済力に関して」への回答

コロナ禍において、負担が多くなってしまった市民生活の援助を求めます。

項目12 「ボランティアに関して」への回答

昨今、災害が増えている中で北見市も、またいつ災害が来るか分かりません。北見市ボランティア(社会福祉協議会)からきちんと説明を聞き、相談しながら北見ボランティア組織を発足したいです。

項目12 「小中高生が連携して行えるボランティア活動を作れませんか。」への回答

要介護施設やデイサービス施設などの見学からスタートさせるなどの取り組みが考えられます。

項目13 「イベントに関して」への回答

イベント参加を呼び込むためには、まずはイベントの予算をとることが必要です。様々な企業様とタックを組みながら北見市を盛り上げていきます。

項目14 「情報発信に関して」への回答(1)

「市の情報発信体制」

市のホームページリニューアル後、情報を拾いにくくなっている。また、TwitterやFacebookなどのSNSを使った情報発信が望まれます。

項目14 「情報発信に関して」への回答(2)

既に北見市に移住した方の意見を聞き、北見市の素晴らしさを発信したいです。

項目14 「適切、明確な情報発信の仕組みはありますか。」「北見のことをもっと知ることができる情報の発信はされていますか。」質問3 項目3「祭り、イベントなどの際にSNSを使用した広報を拡大させていけないでしょうか。」への回答

これまで北見市は、Facebookページや、メール@きたみなどを中心に情報発信してきました。市は3月の市議会予算委員会でTwitterの開設を準備している主旨の答弁をしています。ホームページ、Twitter、Instagram、Facebook、LINEなど様々なSNSでまめに情報発信を行い、各々のSNSを分かりやすくリンクさせる必要があります。また、市観光振興室という部署や観光協会には既にTwitterアカウントがあります。団体とのリンクも必要です。SNSごとにユーザー層が異なり、掲載内容を考える必要がありますが、市の情報発信は特にSNSごとに掲載内容を変える必要のないもの、リンクさえ分かりやすければ役立つものも多いと考えています。

議員個人としても今まで運用しているFacebookのほか、Twitterなどの導入も検討し、連動しながら北見の情報発信、市民への情報提供のためSNSを運用したいと考えています。

質問1 「今後も北見に住み続けるために必要だと思うことに関して」への回答

- ・適切な行政改革(市民サービスを後退させず、将来に負担を残さないための改革が必要)
- ・まちづくり基本条例の改正(各自治区の均等な発展を基本に一体感のあるまちづくりを目指していく)
- ・継続的な地域医療の確保(子どもから高齢者まで安心して地域での医療をうけられる体制づくり)
- ・脱炭素のに向けた先進的なまちづくり(これからの20年は産業構造が変わるほどの変化が考えられます。もちろん国の補助金、助成金も多く、この波に乗ったまちづくりが必要です)
- ・高速道路網を含めた、交通網の俯瞰的整備(少子高齢化社会を迎えている現在、交通網の取捨選択も必要で、時代にあった地域交通網整備が重要になってきます。この5項目をしっかりとできれば、住み続けられると考えます。

質問2 今まで北見で生活してきたなかで不便に感じたことに関して

項目1 「交通機関に関して 利便性を向上させる取り組み」への回答

新しい路線やバスの増便など、事業拡大にかける費用対効果はしっかりと確認、検証が必要になります。現状では、バスの待ち時間や運行状況などの情報を確認するためにバス運行のチェックアプリなどは可能と思います。

項目1「交通機関に関して」への回答(1)

- ① 設備→ノンステップバスの導入と小型化を行い増便、増設を考えます。
- ② JR、高速バスの利用促進及び生活防衛への取り組みが考えられます。
(朝7:30以前、夜20:30以降での発着するJR特急、都市間交通バスの利用者に最大1,000円のクーポン券を支給して公共交通の利用促進等)
- ③ 路線バスの1系統は
現 小泉8号⇄三輪 から 改 東武⇄卸売団地 (案)
 - ・運行時間帯の拡大、増便し利用拡大を図る
 - ・東武 ……女満別空港バスとのアクセス改善
 - 西7号……都市間高速バスとのアクセス改善連絡待ち時間は商業施設で過ごしてもらう等が考えられます。

項目1「交通機関に関して」への回答(2)

地域密着型の公共交通としてデマンド型コミュニティバスの導入を拡大と生活拠点となっている中央三輪地域、夕陽ヶ丘通り(イオン周辺)を中心とした交通拠点の設置

項目1「交通機関に関して」への回答(3)

バス利用の見直しが必要だと感じています。日頃利用する方へご意見・ご要望を聞き、北見市改善を求めます。

項目2「娯楽に関して」への回答

確かに、駅前には学生が気軽に寄れるような場所が減少したと感じます。若者の負担にならないような料金設定がされた場所の提供を求めます。

項目2「駅前に学生が気軽に立ち寄れる飲食店が不足していると感じますが今後も増えないでしょうか」項目3「北見駅周辺にバス待ち、自動車待ちできる施設を作ることはできないでしょうか」質問3項目2「パラボを若者が利用しやすいようにできないでしょうか」への回答

若者のニーズに応えられるお店の誘致や、休憩スペースの確保、子供連れで使える施設の充実を図ることで、駅前に賑わいを取り戻していくことが北見の発展のために重要であると強く感じています。

パラボからの市役所移転に伴う空きスペースは、これから保健センターなどの移転などで埋まっていきます。

駅前周辺のことを考えると、中心商店街空き店舗などの活用、これから行われる中央大通の商工会議所付近の都市再生計画で立つ新しい施設の活用、J R北見駅とバスターミナルの間のスペースが鍵になってくると考えています。

一方で駅から離れた地域の商業施設の拡充もしていくことで、日常生活をする上での快適化にも努め、市内で格差を大きくせず市全体の満足度を上げていくことも必要であると考えています。

項目3「商業施設に関して」への回答(1)

今まで北見で生活していて不便とまでは感じませんが、他の街より商業施設の誘致は弱いのかなと感じたことはあります。学生や若者、子育て世代などは特に不便に感じていると思われ、その影響からネットや他の都市部へのショッピングへと流れているのは現実にあります。北見市民はもちろん近郊地域の方も訪れるぐらいの商業施設を完備することが、地元経済の活性化にも繋がると思われます。

また学生や高齢者のように車を持たない世代に対しては、無料送迎バスの巡回など完備して人の流れを作っておくことも活性化には必要です。「今日は時間もあるのでとりあえずお出かけするか」などの言葉が出るような、豊かな気持ちになれるような街づくりが、この街の未来へと繋がっていくのではないのでしょうか。これは行政というよりも民間企業の協力が主となりますが、この北見市に企業誘致の声を率先してあげることが大切なことだと思います。

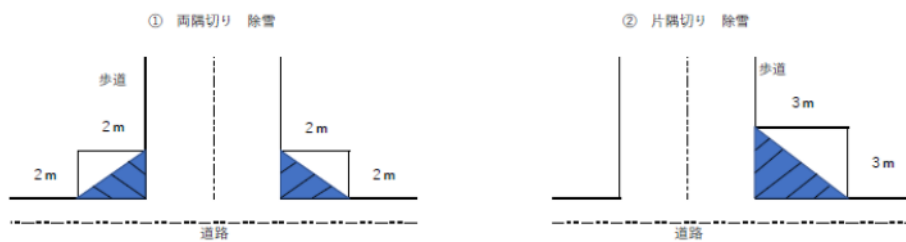
項目3 「商業施設に関して」への回答(2)

北見駅前の活性化を求めます。昼夜問わず、店舗展開できるように、北見市内の商店街を充実し、若者で溢れる各所にしたいです。

項目4 「除雪対応に関して」への回答(1)

(目標)降雪後4日以内の除排雪

- 1、歩道幅1.8m以上の除排雪で車いすでも歩行できるようにする
※ 歩道がない場合は車道の一部
- 2、街交事故の防止のため建築基準法第42条1項5号に基づく自治体条例を参考にした場所を優先した除排雪を行う



項目4 「除雪対応に関して」への回答(2)

除雪対策に関わっての課題は山積みです。その年の降雪量や雪質との関係、降雪量による除雪出動順番、除雪業者の技術的な研究などがさらに必要だと思います。

また、情報誌によると北見市の住民一人当たり平均除雪費は11万5,000円で、道内他都市の3,000円(函館市)～2万7,000円(留萌市)から比較しても突出した金額になっています。1市3町合併により道内で一番広い面積を持つ自治体となり、除排雪を受け持つ道路延長も増大。車道だけで1,636^{キロ}、歩道も加えると2,000^{キロ}を超すといわれています。これからの人口減少を考えると、さらに負担は増えることは必須であり、北見市として次年度に向けた検証作業が必要と考えます。

項目6 「インターネット回線環境の充実に取り組めないでしょうか」への回答

中心街地へのアーケード整備やインターネット環境を整える事で公共施設等の利用を高めワーキングスペースの拡充により市街地等の滞在時間を増やす、ひいては相互による活性化に繋がると考えます。

項目6 「学校にエアコンを導入することはできないでしょうか」への回答

学校にエアコンを設置してほしい、のご意見に賛同！何度か一般質問で取り上げました。北見でも夏場は30℃を超える日があるようになってきました。冬場の寒さ対策は充実されていますが、いまや夏の暑さ対策も必要な環境になっていると感じています。今後も訴え続けます。

項目6 「北見の特長を聞かれると返答に困るのですが北見の特長はどのようなものがありますか」への回答

昔は北見ハッカが世界の市場では有名でありました。今日は常呂のホタテが中国、アメリカ、ヨーロッパに輸出されております。スポーツではロコソラーレがカーリングで銀メダルを取りましたし、北見は世界誇れる地域です。皆様、北見に誇りとプライドをもっていきましょう。

項目7 「公園にあるトイレが古いのですが改善されないのでしょうか」への回答

古いトイレは、取り換えやすい物はFRP製が一番よいと思いますが、課題は公園のトイレが新しいか、古いかというより、毎日か数日おきにも、清掃がされ、トイレトーパーもきちんと補充されるか、つまりきちんと管理され気持ちよく使えることが大事なのではないでしょうか。

北見市の公園のトイレで管理されているところは、地域の方がボランティアで、清掃やトイレトーパーを補充しています。留辺蘂地域では、市が委託で管理しています。

項目7 「観光するところが無いと感じますが作ることはできないのでしょうか」への回答

大空町の一大観光スポットとなった“メルヘンの丘”、道の駅や女満別空港が近いなどのアドバンテージはありますが、同じような風景は端野や緋牛内方面には多くある。この辺りは雲海の発生もあり十分観光資源となるポテンシャルを秘めていると思います。視点を変え、発想を変え、上手に発信することで身近な場所も観光資源となり得る可能性が十分にあると思います。

また、オホーツクブルーの晴天の下でのサイクリングなど自転車を活用することで、国内におけるサイクリストの聖地“しまなみ海道”(広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ)のような存在を目指していくことが可能です。

また、北見ハッカ記念館など既存の観光施設において、定期的に(例えば毎週金曜日など)キッチンカーによるマルシェを開催するなどの取組みを継続して行っていくことで観光施設の魅力の増加を図ることも観光する場所を作る方法の一つです。

質問3 地域を盛り上げる取り組みに関して

項目1 「祭り、イベントに関して」への回答(1)

お祭りがあるとエキサイトしますから、特に若い人は楽しみにしていることでしょう。この2年間、コロナで人が集まることを制限していたため「つまらなく」かんじられたことと推察します。夏にいつも大賑わいの「ぼんち祭り」や、秋の「菊祭り」などが今年ではできるといいですね。「雪まつり」の規模が拡大できると雪国ならではのダイナミックな遊びができるのではないかとワクワクします。

項目1 「祭り、イベントに関して」への回答(2)

コロナ禍に対応した新しい形での祭りを創っていきたい。特色を生かし食と産業に貢献していきたいと考えます。

項目1 「祭り、イベントに関して」への回答(3)

イベント、お祭りに関しては小規模なイベントを行うのではなく、一度に大規模なイベントを行う必要があると考えます。

項目1 「祭り、イベントに関して」への回答(4)

コロナ禍により、学校内のイベントがどんどん中止になっていきました。それに代わるイベントとは言いませんが、学生時代に思い出に残るようなイベント作りをしたいと考えています。

項目1 「じゃがいも祭りの実施を検討いただけますでしょうか」「玉ねぎを活用した祭りは行えないでしょうか」への回答

大いに賛成です。じゃがいも、たまねぎ単品で開催するのか。「いも♡たま祭り」か。または「北見・オホーツクの特産品祭り」か。秋の収穫祭で産品を単に販売するだけでなく、加工品を同時に飲食していただくことが大切です。

じゃがいももたまねぎも種類が増えて、食べ方も豊富になりました。新しいメニューの発表・販売拡大の機会にできると思います。

項目1「祭り、イベントに関して」「項目4 公共施設」への回答

「時代やニーズに合ったイベントや施設整備の実施」
市民がワクワク、イキイキ過ごせるよう、イベントや施設整備を実施すべき。ソフト・ハードの両面で、全世代が住み続けたいと思える街にしていく必要がある。

項目2「商業施設に関して」 項目4「公共施設」 項目1「祭り、イベントに関して」への回答

商業施設については積極的な誘致をするべきと考えますが、民間での事業となるため採算ベース等も含め財政的関与は市としては難しいと考えます。

公共施設については、津別、美幌、訓子府、置戸の各町との定住自立圏構想において中心市宣言をしている北見市としては継続的整備や更新が責任となるため計画的に的確に判断していくべきと考えます。

盛り上げる行事等に関しては、北見市のまちパワー事業での助成金活用はもちろんですが、新たな補助金、助成金も視野に入れて、若者の力、文化の力、食育の力などの強化を前提に活動していきたいと考えます。

項目3「北見のアピール」への回答(1)

首都圏、近畿圏(人口密集地)での加工商品供給が考えられます。

地元での商品開発(例)

- ・美深町 ……白樺樹液
- ・むかわ町…松茸、きのこ栽培
- ・白花豆、ピンクニンニクの増産、玉ねぎの漬物をコンビニ、coop等を通じて販路拡大を追求するなど
- ・温根湯温泉水の利用、養殖事業の支援拡大と販路拡大

項目3「北見のアピール」への回答(2)

市内をアピールする方法はいくらでもあると考えます。特にSNS等の発信が弱いと思います。一市三町の各所をアピールし、市内に観光客からの発信も必要だと考えます。

項目3「北見のアピール」への回答(3)

〇〇の街などメディアに取り上げて頂く機会を増やせると、観光の発展に繋がると考えておりますが、今はSNSの時代です。メディアに捉われず、時代に沿って、SNSを利用しながら北見の良さをアピールしていきます。

項目3「花を活かした活動はできないか」への回答

毎年5月に「花いっぱい運動」に取り組んでおり、各自治区で街路植栽を進めています。また相内町のフラワーロードは、観光バスが国道ではなくルート変更して通るなど高い評価を受けています。

さらに「北見の花」としてふさわしい花を「今年のベストフラワー」を市民に選んでいただき、重点化してイベントに活用することがあってもよいのではないのでしょうか。

項目4「公共施設」への回答

トップアスリートがプレーできるようなスポーツ施設がまだまだ完備できていない。プロの選手がプレーできる設備環境を整えることで、公式戦や宿泊地などの誘致も強くなる。スポーツの為に多くの人が北見市に訪れ、経済効果にも繋がっていく。設備が整えばトップアスリートの訪問も増え、それに伴いジュニアアスリート育成の部分でも強化することができる。スポーツ教室や育成プロジェクトなどを頻繁に行えば、この街でトップアスリートを誕生させることも夢ではない。地元出身のアスリートを応援することで、パワーをもらい、地域の盛り上げにも繋がっていくと思う。

もちろんスポーツ施設だけではなく、隣接して運動公園のようなものがあれば、家族連れの寛ぎや軽運動する高齢者なども利用することが可能だろう。雨季が少なく湿度も低い。夏期のスポーツには適した環境の地域だと思うので、もっとそれを活かせるように力を入れるべきだと思います。

「項目5 「清掃ボランティア活動が必要」への回答

前述の冬あか一掃運動とともに、他の健康増進グループでは、月例会の時にごみ拾いしながら歩く企画も行っています。自主的な活動があることを市民がもっと情報共有できたらと思います。また、スマホアプリにはごみ拾い「PIRIKA」があり、すでに加入して活動している市民や高校生グループもあります。そういう活動がさらに広がっていくことを期待します。

項目6 「交流会に関して」への回答

若い人の意見を聞く場がありません。今回のアンケート内容を市政に反映する必要があると考えます。具体的には市長を交えた「若者版北見市まちづくり協議会」を設置し、ここで十分議論をする必要があります。

「項目6 地方との交流の場を設けていただくことはできますでしょうか」「海外交流の機会は今後作られていくでしょうか」への回答

北見市はバーヘッド町、ポロナイスク市、エリザベス市、晋州市と友好都市提携を結んでいます。現在ウクライナへのロシアによる侵略が大変な状況です。北見市とロシアのポロナイスク市との関係は今年提携50年を迎える記念すべき年です。

世界平和を求め多くの市民が声をあげるこのような時にこそ、長年築き上げた親善交流活動は、国家間とのこととは別に考えるのが本来あるべき姿です。その視点だけから考えれば、市が積み上げてきた友好都市との関係も含め海外交流の機会は期待できていると思っています。

ロシアとの関係で一つお伝えしておきたいことは、地球上に暮らす人びとはそれぞれが一般の市民であるということです。戦争反対、平和を求めることは別に、個々のロシア人、ロシアなど海外にルーツのある方々を、地球に住む同じ人として尊重し合える考えを持つことが、必ず海外交流、国際交流の前進につながると確信をもっています。

項目8 「進学に関して」への回答

あらゆる産業の担い手不足を解消するため人材育成をオホーツク圏域で実施すること、地元企業に対する雇用対策、地域資源を活用した製品の開発(キタミブランド)し雇用拡大につなげる、北見市で起業する方への支援、市外から本社機能を移転した企業に対する補助を考えております。

質問4 地域の課題に関して

「項目1 北見で暮らしているなかで感じている地域の課題に関して」

「人口に関して」への回答(1)

現在の最新の統計による北見市の人口は11万4千人であり毎年約1,000人程度減少しています。この状態が続くとあらゆる産業の働き手、地域活動の担い手、運転手不足によるバス、タクシーなどの公共交通維持、学校の存続に発展します。このため持続可能なまちづくりを考えた時、北見市に住み続けたいと実感できる政策を考えております。

「人口に関して」への回答(2)

不妊治療に対する助成を提案する。また、子育て支援を充実させることで、若者が積極的に子どもを持ちたいと思えるようにしていくべき。高齢者に対しては、生活支援や見守りを、地域の力を使いながら実施する仕組みづくりが求められます。

「人口に関して」への回答(3)

少子高齢化の現在、子供達が住みたいと思わせる事が大事だと考えます。子供達の就職に関しては市内に帰ってくるメリットがあれば少しずつUターンは増えると思います。

「人口に関して」への回答(4)

人口減少は、大変問題です。10年後には10万人、8万人を切ってしまうというデータが出ています。切らさないためにどうするかを考えて、実行するそれに尽きると思います。

「少子化問題に対し低所得者への支援にお考えはございますか」への回答

次世代子育て支援として学校給食費に対する負担軽減、低所得者向け高校就学に関する支援、大学就学に関する奨学金制度の拡充を考えております。

「小中学校のオンライン授業を増やす」への回答

オンライン授業を増やすと不登校・いじめは少なくなると思いますが、反対に対人関係を築くことが下手になります。社会人になってから苦労するよりも、子供の頃から人間関係を築く事が大事だと思います。

「子育てに関して」への回答

コロナ禍かつ、更に部活動の活動費が負担である家庭があるという意見をよく聞きます。密を回避するために遠征バスの台数を増やすなど、コロナ対策を行うことはもちろん大切です。しかし、増やした分、倍に遠征費はかかっています。北見市の維持しているバスを簡単に利用できることを要望します。

「医療、福祉に関して」への回答

厚生労働省の推計では、身体障害・知的障害・精神障害の者数は全人口の7.4%にもなります。その中でも特に障害認定されている児童が近年増えて続けています。しかしながら、この地域は「障がい児・者」に対しての医療体制や介護施設が、まだまだ不足しています。障害福祉施設や療育センター（障害のある子供に対して、それぞれに合った治療や保育・教育を行う場所）のような一括できるような施設ができることで、医療から介護・教育と連携を取れる体制が整います。また、障がいのある者が成長した後も、その人に合った職業を見つけてあげるなどの就労支援をもっと強化するべきだと思います。もちろん高齢者に対しての福祉サポートも継続して充実化していきたい。こういったことが一括組織で連携できることで、障がい児として産まれても、不慮により障がい者になったとしても、障がい者が不便だと感じさせないような安心して暮らせる地域となるでしょう。

「公共施設に関して」への回答

- ・EV化促進のため充電設備の増設
- ・再生可能エネルギー生産へ行政が進んで行く
- ・公共施設の電気は再生エネルギーを優先する

「まちづくりについて」への回答(1)

高齢者の活躍支援として豊かな人生経験を生かしたボランティア制度の拡充、働きたい65歳以上の労働環境の整備を考えております。

「まちづくりについて」への回答(2)

新しいこと、進歩すること、非常に大事だと思います。その一方で古き良きことも多くあります。共通していえることは地域内での社会連携だと思います。人と人、人と地域が強く連携することで生まれるまちづくりの形を応援します。

「スポーツ振興などを考えた時にプロスポーツチームの合宿誘致などは考えていますか」への回答

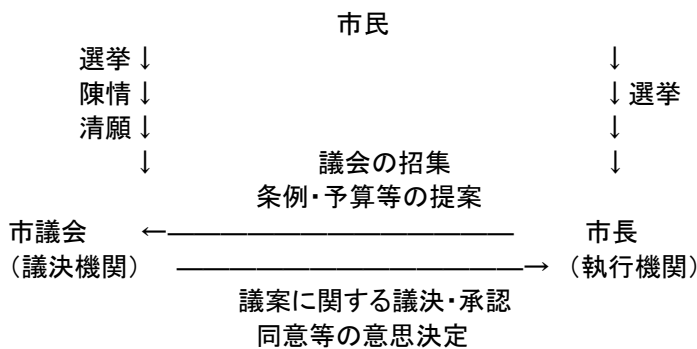
スポーツ合宿も進み全国から北見に多くの人が来ています。

「冬に限定ですが、除排雪が悪いことについてどう思われますか」への回答

除排雪について雪は雨と違って残って固まる性質があることで、市民にとってやっかいものになります。その点でいえば、雨でも大量に降れば災害になります。ですから雪が残ることで市民の暮らしにダメージを与えるとすれば「災害」の1つと考えてよいと思います。バスや自家用車は走らないことを想定すれば「災害」という見方が確立すると思います。災害から市民を守ることは行政の一番の仕事ですから、この雪で迷惑を被る市民が、行政に対応を求めることは当然でお金がないでは本来通用しない言い分です。しかし、この迷惑を取り除くことが、自分本人や手助けで可能であれば、そうした手段もとれます。しかし、それができないとすれば行政が災害と未然に防ぐ、または取り除く役割があります。

北見市が言う「玄関前の雪は処理しない」の言い分は、責任放棄かもしれませんが、北見の市民がどこまで求めるかは、もっと突き詰めて、除排雪の内容を定めていく必要があります。私は、自ら玄関前や車庫前に雪を置き去りになると困難な世帯には行政が対処すべきと考えます。

複数質問1 「自由参加で今の問題点を情報共有する時間を設けたら良いと思う」への回答



地方議員の権限・権能として市民からの陳情・清願・要望等を受け同意等の意思決定を行っている事から、以前「北見まちづくり青年会」が主催された「まちづくりワークショップ」が非常に有効な手段と感じています。それぞれの自由意思による自由参加ではありましたが、道議会議員、北見市長、北見市議会議員とまちまちな職業の人々、学生とKT法も用い、様々なカードが作られていました。その時若い人々から「子育てしやすい環境」や「修学前の子どもの遊び場」「産後ケア」などがまとめられていたなかで、やはり市長が臨席し参加されていたのが実現を早め、「パラきたキッズ」の整備、子育て児中の皆様との移動市長室の開催と成果があり情報共有が図られました。